

図書館の「あり方見直し(案)」に関する公開質問状と教育委員会の回答

守谷 信二 (まちだ未来の会・世話人)

去る2月1日の定例教育委員会で、「町田市立図書館のあり方見直し方針」が承認された。昨年10月に「今後の町田市立図書館のあり方について」(以下、「原案」)が第4期生涯学習審議会に諮問され、実質2回の審議で出された答申を受けて、教育委員会としての「成案」となったのである。来る3月議会で行政報告され、市の方針として確定することになる。

これまで、まちだ未来の会第19回学習会などで触れてきたが、この「原案」は、昨年6月に策定された「町田市公共施設再編計画」の「集約化や複合化・多機能化」方針に従って、既存の図書館の統廃合や「効率的・効果的運営」(民間委託など)を意図する計画である。このような市民生活に大きな影響を及ぼす計画が、行政組織内部だけで検討され、市の方針として決定されることには大きな違和感がある。

まちだ未来の会では、生涯学習審議会への傍聴の折に入手した「原案」をめぐって数度の学習会を開催し、その疑問点を6項目に絞って、教育長宛に公開質問状(昨年12月8日付特定記録郵便)を提出した。今年1月18日までに文書回答をされるよう求めたところ、17日に生涯学習総務課担当課長、図書館長、図書館副館長同席のもと、会の代表ほか数名に対して説明とともに直接回答文が手渡された。

公開質問状と回答の全文は、町田の図書館活動をすすめる会のHP内にあるまちだ未来の会のサイ

トを参照していただくことにして、ここでは次の3点の質問項目と回答について、コメントしておきたい

質問項目1:「町田市の図書館数について」

市の「再編計画」では公共施設の「適正化」が力説され、「原案」でも「図書館の適正配置の検討」という言葉が使われている。質問項目1は、そもそも町田市教育委員会として、市域に何館の図書館があることを「適正」と考えているのか、という問いである。計画行政が建前の自治体にとって、すぐに実現できるか否かは別として、まず目標値を設定し漸次そこを目指すというのが一般的な進め方である。しかし、これに対する回答は、「(集約化や複合化の)検討の中で、町田市の図書館数を決定してまいります」というものであった。

今後、新たに図書館を建設するなどは論外で、集約や複合化により最小限に減らした館数が、町田市の図書館の適正数だという回答である。

質問項目5:「貸出冊数の減少傾向について」

「原案」では、鶴川図書館やさるびあ図書館の集約化の必要性について、個人貸出冊数の減少を大きな理由として挙げている。しかし、質問状に資料として添付したグラフを見ても、近年の資料購入費の激減が貸出冊数の減少の大きな原因であることは明らかである。しかし、「原案」では資料購入費について全く触れられていないので、それは何故かという質問である。回答は、前段で「人気のある新刊図書のみならず、長く利用することができる広い分野の資料を購入」する選書が必要であると、後段で

は成案を作成する際に図書購入費の推移を示すことを検討する、とある。

「人気のある新刊」を購入することが、図書館の選書としてふさわしくないと暗に言っているような記述である。「広い分野の資料を購入」するためにも、人口一人当たりの資料購入費が、多摩地域で最低ではどうにもならない。後段の「図書購入費の推移」は確かに成案の13頁の表に「図書購入費」の欄が加わり、説明文にも2011年度に8,000万円超あったものが、2017年度は「約3,000万円にとどまっている」という文言が追加されている。しかし、肝心の貸出冊数の減少理由に関する記述には、全く変更は加えられていない。

質問項目6:「町田市5ヵ年計画17-21」について

これは「再編計画」や「見直し方針」の元にある「町田市5ヵ年計画17-21」(2017年2月公表)に関する質問である。88項目の「重点事業プラン」の中で生涯学習部の所管事業は皆無に等しく、反対に市民の学習や歴史・文化に関わるほとんどの施設が「行政経営改革プラン」で見直し対象とされている事実を、教育委員会としてどう捉えているのかというものである。これに対する回答は、社会教育の振興を担うのは教育委員会の役割だが、それをどのように行うかは、「公共施設の老朽化や構造的収支不足など、市が置かれている状況を踏まえて決定していく必要がある」という。つまり、「5ヵ年計画」を見る限り、学校教育に比べて社会教育の必要性は相対的に低いと考えているのである(因みに、重点事業プランで生涯学習部所管事業は1、学校教育部所管事業は9)。

ここには、教育委員会の学校教育偏重、裏返して

言えば社会教育の軽視が明らかに見て取れる。子どもたちがこれからの社会を生きるために、英語教育やICT教育も必要ではあろう。だが、身近な通える場所に図書館があることや、教育委員会の所管から外れたとはいえ博物館・美術館などと連携した情操教育も、人格形成にとってきわめて重要なはずである。学校教育と社会教育の融合が叫ばれて久しいが、わが教育委員会の体質は旧態依然と言わざるを得ない。

* * *

「町田市立図書館のあり方見直し方針」は、市の方針として決定された。この間、少なくとも市議会への請願があり、生涯学習審議会の「答申」があり、まちだ未来の会としても、「私たちはこう考える!町田市の公共施設再編計画—市民版」や今回の「公開質問状」で一定の意見を提出してきた。しかしながら、方針の根本は何ひとつ変わらず、一部文言の入れ替えがあったに過ぎない。はじめから結論ありきの「原案」なのである。

「原案」は行政側が作り、形式的に審議会に諮り、「答申」のイメージさえも行政側が提示して、高々数回の審議で外部の意見を聞いたことにする。役所にいた人間として、担当職員の苦勞がわからないではないが、こんなことで本当に良いのだろうか。

時間はかかるかもしれないが、開かれた場で率直に実状を訴えて、市民の理解を得る方法はなかっただろうか。責任ある立場の人間が、図書館の社会的な意義や役割を十分に理解したうえで、労を惜しまず市民に直接語りかけ、信頼を得る努力を重ねるべきである。(会員)

第8回まちだ図書館まつり

ふるさとって何ですか?



日時:2019年3月23日(土)午後2時~4時

場所:町田市立中央図書館6階ホール

講演:「子どもの頃にきいた故郷の物語」

講師:今井友樹さん(映画監督)

・鼎談 町田で育ち、町田の民話に心を寄せるゲストお二人と今井監督がテーマについて語り合います。

・会場の皆さんとトーク

・語り:町田の民話から (NPO法人まちだ語り手の会)

資料代:300円

申し込み不要(直接会場へ)

町田の図書館活動をすすめる会企画

問い合わせ:久保 ☎ 080-4295-9308

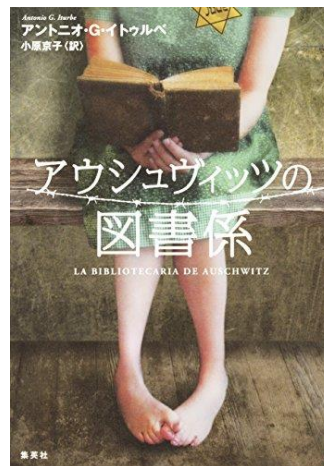
こんな本み〜つけた！(第14回)

『アウシュヴィッツの図書係』

アントニオ・G・イトウルベ (著)、小原京子 (翻訳)

(集英社 2016年)

紹介:しょうじ りお



これは事実にもとづいて、ジャーナリスト・作家である著者がまとめたものである。第二次大戦時ナチスが実行したユダヤ人絶滅収容所アウシュヴィッツの中に、子どもたちの学校があり(350人いたこともある)、一人の16歳の少女が図書係として存在した。

学校はナチスが国際的非難から免れる目隠しのために全収容所中ただ一つの家族収容所とともに開設した第31号棟という一室であった。学校を運営したフレディ青年に頼まれて、たった8冊の本を秘密裏に管理した少女ディタは戦後まで生きのび、著者の取材を受けた。日々、選別と処刑の危険にさらされるなかで世界地図を見ること、歴史の話を書くこと、ユーモアのある小説を読むことがどれだけ子どもたちの心と体を支えたか、先生たちの心にある「生きた本」が伝えられるとき、どれだけこの現実から離れることができたか、その事実が、大波のように繰り返し読むものを圧倒する。

本を持っていることがみつかったら処刑されること

は分かっているディタは、服の裏の秘密のポケットに本を入れて運ぶ。

監視の視線を受けるなか、痩せこけた足の震えは止まらない。

1944年3月、移送の命令のもとに家族収容所の3,792人がガス室に送られ、つぎの朝、ディタは風に運ばれてくる乾いた何かが雨のように降り注ぐのを見る。灰だ。これまでに見たこともない黒い雪が降り積もる。ディタは両手をお椀の形にしてその粉を受け止めようとする。友だちや先生が半分いなくなった31号棟でただうずくまる子どもたちにむかって、ディタは椅子の上に立ち、戦争を茶化した物語を読む。だれも聞いていないのは分かっているでも読み続けた。そのうち何人かの子どもが笑った・・・。

この本は70年前のナチスの収容所の実情をいま伝え継ぐものであり、本というものの価値を伝えるものである。(会員)

第17期図書館協議会 第13回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2019年1月21日(月)午後3:00~5:20

中央図書館・中集会室 傍聴者:なし

【報告事項】

《館長報告》

1. 平成30年(2018年)第4回町田市議会定例会<一般質問> 12/5 木目田英男議員「図書館のあり方について」

町田市の図書館のあり方は⇒今あり方見直し中、複合化やコミュニティ支援など検討。

Q:木目田議員の意見⇒未利用者が求める図書館像を聴く、Wi-Fi環境、エリア分け、マイナンバーカード利用も検討すべき。

委員長:Wi-Fi環境は必要、マイナンバーカード利用は利用者の秘密保護のため慎重に。
<文教社会常任委員会> 12/12 行政報告「町田市立図書館のあり方見直しの検討状況について(中間報告)」

Q:委員からの質問は⇒・利用圏域を示した図に他市の利用可能な図書館も落としては。(⇒認識しているが図には落としていない)・生涯学習審議会の審議会数3回は少ないのでは(⇒その前に生涯学習施設全般について2年間の検討をしている)・鶴

川図書館再編についてのスケジュールは(⇒URの動向を見て)

委員長: 2年間検討したメンバーは半分入れ替っており、検討を踏まえた上とはいええない。

2. 教育委員会(省略) 3. 生涯学習審議会(省略)

4. その他

・主任嘱託員選考試験 1/4～1/25 継続しない人の補充

・嘱託員選考試験(1次選考) 1/28 募集4名

・町田市子ども読書活動推進計画推進会議 1/29

委員長: 年2回しかないの、資料の事前送付など、充実した討議ができるよう工夫する必要がある。

・学習会「町田市の図書館をデザインしよう!」2/17、3/10

利用者懇談会の参加者が少ないので、学習会形式で声を聴く。連続講演とワークショップ。

Q: 講師はどのように選定されたか。⇒ARG 代表岡本真氏。図書館関係のコンサルタントをされていて、社会の状況の変化の中での図書館のあり方を考えている人だということで選んだ。

委員長: 図書館や協議会が自前でワークショップができるスキルを持つことが望ましい。結果は協議会に報告を。

《委員長報告》

審議会 第7回 12/21

○協議会より図書館長宛てに提出した「町田市立図書館あり方見直しについて(案)への意見」の内容を審議会で伝えた。事務局から提案された答申案に対する委員の意見を、正副委員長が審議し成案を固めた。

＜案と変わった点＞

・図書購入費の減少という文言を加えた。

・利用圏域のところで「格差が生じることのないように」を加えた。

・「運営体制検討の視点」で、指定管理者制度について、図書館法第17条に無料の原則があるので、民間企業の活動にはなじまないという指摘があると加えた。など

委員感想: 貸出数の分析は中途半端。この分析では集約の理由にはならない。

Q: 今後どのようにあり方見直しを作成するのか⇒目指すべき姿については答申をベースに、留意点については案にはなかったので追加し、新しい統計を追加する。

委員長: 同じ規模の市との比較だけでなく、多摩地域の中での比較も必要。子育て世代に選ばれる町田には、文化・教育は大切。

○「生涯学習推進計画 2019-2023 についての意見」年末に急遽、メールによる話し合いでまとめた。

Q: 図書館事業計画がなくなり、生涯学習推進計画に包含されることになるが、推進会議を設けるのか⇒この計画は新たな事業が対象で、事業を網羅してはいないので設けない。生涯学習施設にはそれぞれ協議会などがあるので、施設ごとに点検し、職員が持ち寄ることになる。

委員長: 図書館事業計画がなくなると図書館の動きの全貌が見えにくくなることを危惧する。日野市では第3次図書館計画が策定され、細かいところまで書き込まれている。この計画の指標はこれが適正か判断しにくい。単年度ごとに進捗状況を公表するか⇒報告はするが公表が年度ごとか確認する。

★次回第17期図書館協議会第15回定例会

5月13日(月)午後3時～町田市立中央図書館中集会室。傍聴自由ですが、休館日のため事前に中央図書館に申し込んでください。

☎042-728-8220

第8回 **まちだ図書館まつり**
図書館
～本はともだち～
2019年3月22日(金)～24日(日)
町田市立図書館全館&文学館で開催
《実行委員会企画》
22日(中央)オープニング 春だよ～、この指とまれ!
おはなし会と草花遊び
22日(文学館)講演会「昔の絵本をひもとく 父清水崑が描いた戦時絵本と思い出」お話:定成淡紅子
24日(中央)ビブリオバトル バトラーは中学生から大学生
チラシは各図書館・文学館などで。図書館HPで3月1日(金)より配信します。
主催:第8回まちだ図書館まつり実行委員会
共催:町田市立図書館
問い合わせ[事務局]:中央図書館 ☎042-728-8220

「鶴川図書館が危ない！」

—鶴川図書館の存続を求める緊急集会—

まちだ未来の会 第 19 回学習会報告 鈴木 真佐世・守谷 信二・手嶋 孝典

去る1月26日(土)午後1時30分から鶴川市民センターにて、第19回学習会が21名の参加により開催された。学習会に先立ち、午前10時30分から、鶴川図書館の存続を求める市長への要望書の署名活動を鶴川図書館前で実施した。

学習会は次の内容で行われ、実りの多い集まりとなった。①2017年春から学習会を開始し、市議会への請願等を行ったにもかかわらず、鶴川図書館の集約を含む再編計画策定に至った経過、今回の市長への要望書などを説明。②生涯学習審議会で配布された「町田市立図書館のあり方見直しについて(案)」に対する生涯学習審議会の答申内容について報告し、コメント。③この案について教育委員会に出した公開質問状に対する回答の報告、コメント。④三グループに分かれて、鶴川図書館存続のためにできることについての話し合い。

※当日配布した資料、話し合いの内容は、町田の図書館活動をすすめる会のホームページ内のまちだ未来の会のコーナーに掲載してあります。

全体での話し合いで出た意見

・比較対象を全国にせず、多摩地域とすべき(広袴に住んでいる。ずっと多摩の先進市、武蔵野市や小平市に住んでいたの、町田市はそのレベルでなくて残念)。

・議会で請願を採択した。採択したら議員にも責任があると思う。

・野津田は人口が増えているので、鶴川図書館を閉館ではなく、移転を考えるのはどうか。

・バス路線で駅前図書館には行かれる。⇒バス便はあまり多くない。家族で行くと、往復で1,000円近くかかる。駐車場もないので、車でも行かれない。

・多摩市は半径1kmの範囲に図書館がある。

Aグループでの話し合い

・重点事業と行政経営改革プランとの事業費の比較を数字で出してみる。

・小中学校のPTAにも要望書の署名活動に協

力してもらおう。

・議員さんを通して市役所の秘書課に市長との面談を文書で依頼する。

・子連れのお母さんも一緒に市長のところへ。

・鶴川図書館をテーマにした絵を描いてもらい、展示する。⇒実施(掲示は3/22(金)～を予定)。

・図書館がある団地、図書館がある商店街をもっとアピールする。

・鶴川、野津田、小野路などの人口構成と人口の推移のデータを出す。⇒第20回学習会で実施。

Bグループでの話し合い

・「町田市文化プログラムに参加しませんか」ということを出しながら、生涯学習を削るのはおかしい。

・スポーツ施設にお金をかけ過ぎ。

・PTAに働きかける。

・議員にももっと働きかける。

・統計資料について。利用者、来館者数を出す。

・多摩地域の図書館との比較を出す。

・小野路に図書館をという意見もあったが、移動図書館をもっと活用すべき。

・駅前図書館が子どもや高齢者にとって利用しやすいとは言えない。複合施設が望ましいとは言えない。

・機械化の失敗。お金をかけて読書環境を劣化させている。コミュニケーションの喪失。

・図書館の数を減らすというのは、活字に親しむ機会を奪うことになり、最悪の政策である。

Cグループでの話し合い

・町田市と隣接している他市との連携も大事。

・リクエストの受け取りだけでは、本来の図書館の機能が果たせない。

・ツタヤのTカードだと個人情報警察に渡されることもあり難しい。

・鶴川地域の魅力をもっとアピールする。

・次回以降に向けて、もっと議員に来てもらう。

・人がもっと集まれるように工夫。



例会 1/22 (火) 報告

・18:00～20:00 中央図書館・中集会室
出席：石井・伊藤・鈴木(真)・手嶋・松下・守谷

1/25 (金) 12:30～
No231 印刷・発送等(清水・手嶋)

議題

1. 会報について

(No232): 巻頭言「公開質問状の回答について」(守谷)、「こんな本見～つけた！」第14回(未定⇒庄司)、まちだ未来の会第19回学習会記録(鈴木(真))、図書館協議会第13回定例会報告(清水・山口)

2. 今年度の活動計画について(変更なし)

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会の取り組み

・学習会

第19回学習会⇒実施済み(21名参加)

鶴川図書館が危ない！—鶴川図書館の存続を求める緊急集会—(「知恵の樹」No232 5頁参照)

第20回学習会(詳細未定)⇒実施済み(20名参加、)⇒詳報「知恵の樹」次号

・「町田市立図書館のあり方見直しに関する公開質問状」について

※公開質問状の本文は、「すすめる会」ホームページ内の「未来の会」のページにPDF版を掲載。⇒1月17日付教育長からの回答も掲載。

※回答を郵送するのではなく、話をしながら手渡したいとの申し入れがあり、1月17日(木)午後4時から中央図書館ホールで、「未来の会」から菌田、鈴木、守谷、手嶋、行政側からは生涯学習課担当課長の早出、図書館長の近藤、副館長の中嶋各氏の出席により、面談を行った。

回答内容は、質問の趣旨と噛み合っていないのが目立ち、不満足な内容だった。項目ごとに質問意図と回答との不整合を指摘し、真意を質したが、行政トップの意向が大きく作用しているのではないかと思わざるを得ない。⇒「知恵の樹」No.232 巻頭言参照。

「すすめる会」の取り組み(変更なし、省略)

4. 学校図書館指導員について

その後の進捗状況: 学校司書設置の方向で検討が進んでいる。

教育プラン(案)には学校司書が配置されるとあり。4年間で16人とあるがどのように配置されるか不明。

5. 第8回まちだ図書館まつりについて

コアスタッフ会議の報告(省略)

「すすめる会」の取り組み: 久保企画案(「知恵の樹」No231 8頁参照)

6. 生涯学習審議会への諮問「町田市立図書館のあり方見直しについて」について

1月9日(水)に答申が出された。⇒2月1日(金)の定例教育委員会にて「町田市立図書館のあり方見直し方針(案)」が承認された。

7. 11・25 対話集会の赤字解消方法について(省略)

8. その他

市民向け学習会「町田市の図書館をデザインしよう！」について

①2月17日(日)「持続可能な図書館のあり方」

②3月10日(日)「町田市らしい図書館の未来」

図書館側から打診があり、その学習会の前の、2月5日(火)、講師の岡本真氏と「すすめる会」との意見交換会があった。会員5名出席。

報告

1. 町田市立図書館協議会第13回定例会

生涯学習審議会が1/9に答申を出した。嘱託員の公募。子ども読書活動推進計画推進会議(1/29)。多摩地域公立図書館大会(2/7、8)。学習会「町田市の図書館をデザインしよう！」(2/17、3/10)など(「知恵の樹」No232 4,5頁参照)。

2. 団体及び個人からの報告

図書館六分会協議会: 六分会協議会からの出席者が新年度から変わる見通し。

鈴木: 1/29 子ども読書推進計画推進会議に出席予定。「鶴川地区協議会だより」に柿の木文庫のおはなし会などの活動が紹介された。

《編集後記》町田市の行政は、市民の意見を聴くというのはポーズだけ。市議会全会一致の請願採択を無視し、生涯学習審議会を行政の追認機関に貶め、市民の声を封殺している。請願を採択した市議会にも責任はあるが、これを正す最後の手段は、沖縄県と同じように住民投票に持ち込むしかないのだろうか？(T2)